

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700781		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム新得ふれあい館		
所在地	上川郡新得町西3条南6丁目2-3		
自己評価作成日	令和4年12月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700781-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新しいホームになり、それぞれがゆったりと生活出来るようになっている。
 ・コロナ禍のため全員で外出する事が難しくなっているため、ホーム内で楽しめるような行事を考えている。また利用者の希望されたメニューを提供し、外食した気分を味わっていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR新得駅近くの閑静な住宅街にあり、木造1階建てで手すり等が設置されたバリアフリー構造となっている。リビングには応接セット、テレビが配置され自由な空間となっており、窓からは桜の名所として有名な新得山の四季折々の豊かな自然が一望でき、テラスに出てさわやかな外気に触れるなど憩いの場となっている。母体法人は多くの福祉関連施設を運営し、多くの経験を活かすと共に日頃から職員の研修にも力を入れ各種の委員会を設置してケアの質の向上に努め実践を重ねている。現在コロナ禍で交流や外出の制限はあるが、開設当初から培ってきた町内会とのつながりや関係機関との連携ができている。地域包括支援センター主催の「認知症キッズサポーター講座」での講師派遣や利用者と小学生との交流の場を提供するなど相互に協力を図っている。利用者が重度化した場合、行政や町内にある特養、医療機関と連携しながらスムーズな対応をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作成している。理念は定期的に見直しをし、新たな物に変更している。職員はその理念を常に意識する事により、より良いケアにつなげている。	定期的に事業所理念を見直している。職員全員で案を出し合い、お互いを思いやりその人らしい生活を大切にしていきたいという理念を作成している。理念は廊下に掲示し会議等で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入している。会議や行事には積極的に参加するようにしているが、コロナ禍の為現在は会議のみ参加している。緊急時の連絡網を作成していただいている。	コロナ禍で町内会の大きなイベント等の参加は自粛している。開設当初から町内会長が運営推進委員や緊急連絡先を引き受けており、地域住民からは日頃、挨拶をかけてもらう等つながりは続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の小学生を対象に認知症キッズサポーター養成講座に参加していたが、コロナ禍の為数年行われていない。町の支援高校の校外授業の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍の為2ヶ月に1度紙面にて対応させていただいている。事業報告やヒヤリハット等の報告を行い、意見をいただいている。会議の内容については、職員に報告しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は町内会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員が委員となり年6回開催している。コロナ禍により書面会議での活動報告書等を委員に送付し、意見・要望等をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の連絡、情報等を提供していただいている。運営推進会議にも参加していただいている。	町担当者とは入居状況、介護保険更新や認定調査、成年後見等日頃から連絡体制をとっている。地域包括支援センター担当者とは困難ケースの相談や助言を得ている。事業所では小学生対象の認知症研修に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2度事業所内にて研修を行っている。2ヶ月に1度の運営推進会議と一緒に身体拘束適正委員会を行っており、意見をいただきケアに取り組んでいる。	身体拘束の事例を会議等で話し合い拘束の内容と弊害を学び身体拘束をしないケアに努めている。人感センサーの設置や施錠については身体拘束適正化委員会に図り、定期的に入居者の健康面への影響を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げている。社内研修や事業所内での研修も行っている。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される利用者がおられた際に、研修に参加し理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にホームを見学していただく事で、ホーム内の雰囲気を見ていただいている。契約の際には全ての契約書を読み上げ、確認と理解、納得をしていただける様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々関りを持ちながら意見等を聞く機会を設けている。家族とは、来館された際や電話等でお話を伺うようにしている。	管理者や職員は日々の会話や家族からの電話、来所時に意見や要望を聴いて運営に反映させている。コロナ禍での面会希望については玄関内で短時間のスクリーン越しや窓越し面会で対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議で話し合いをし、問題があればすぐに解決できるようにしている。職員とのコミュニケーションを取りながら意見の言いやすい環境作りに努めている。	管理者は申し送り時や日々の業務、会議等で職員が意見・要望を出しやすい雰囲気づくりに配慮し、出された意見等を運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員が評価される機会を設けている。代表者との面談も行き、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やオンラインでの研修に参加し、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修の機会はあるが、外部の同業者との交流の機会はない。今後コロナが落ち着けば、交流の機会を増やしていけるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談をしている。その時にご家族に生活歴等を伺い、安心して生活が出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細な事でもご家族に連絡をするようにし、その時に不安や要望等がないか伺い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談させていただいた後に職員会議を開き、情報を共有している。情報を共有することにより、どのような支援が必要か見極める事につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな事が出来るのかを見極めながら一緒に行う事で、安心感や楽しさを感じていただいている。同じ空間を共有する事により、家族のような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限を設けている中でも直接お会いできる機会がある時には、短い時間でもコミュニケーションを取るよう心掛け、より良い関係性作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、馴染みの店や美容室には行けなくなっている。面会も制限がある為窓越しでの面会や、手紙や電話等で関係が途切れない様になっている。	現在感染予防の為、行き慣れていた理美容室や商店の利用は自粛しているが、馴染みの関係が継続できるよう手紙や電話のやりとりの支援を行ない今までの関係性の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや食卓に集まり会話をしたり、体操や好みの音楽番組を観たりと楽しまれている。また利用者同士がトラブルにならないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあればいつでも対応させていただきたいと思っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との関わりや会議等の中で、希望や意向を把握出来るよう努めている。またご家族、職員で相談しご本人らしい生活が送れるよう配慮している。	日々の関わりの中で一人一人の思いを把握するようにし、会話が少ない利用者からは動作やしぐさ等から思いを汲み取り、職員間で共有してケアにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式アセスメントを入居前にご家族に記入していただき、入居前に職員間で情報を共有している。またご本人やご家族にも伺ったりし、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りや、月に1度の職員間の会議で情報を共有している。日々のご本人との関りの中で把握出来るように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とゆっくり話せる機会を持ち、希望を伺い毎日の職員間の会議で話あっている。また医療面では、主治医に相談しケアプランに反映出来るようにしている。	月1回の会議や申し送り時、日頃のケア内容等の記録を基に、関係者からの意見や利用者、家族の希望などを把握し6ヶ月ごとに介護計画を見直ししている。入院等心身状況に変化があるときはその都度見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、日々の申し送り、職員間の会話の中で出た事を大切に、生活援助計画の作成や見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを大切に、柔軟で臨機応変に対応したいと常に考えているが、コロナ禍で実現が困難な場合もある。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や町の行事等には積極的に参加していたが、現在はコロナ禍の為参加出来ない。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を大切に、入居後も変わらず受診出来ている。受診は基本ご家族に対応していただくことになっているが、理由がある場合はホームで対応している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医等への受診継続を支援している。基本的には家族対応での受診になっているが、職員が付き添い受診することもある。定期的な往診が行われ利用者の健康面をサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師が在籍していない為、週に1度の協力医療機関の訪問時に相談し、適切なアドバイスを貰っている。状況に応じては、医療機関への受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時に医師や看護師と情報を交換している。現在入院中はコロナ禍の為面会は出来ないで、電話にて情報を貰っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時にご家族に説明し、理解を得ている。また状態に応じて地域の関係者等に相談し、協力を得ている。	入居時に利用者と家族に重度化、終末期ケアについての指針を十分に説明し同意を得ている。重度化した場合、行政や医療機関と連携し協力を得ながらできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも閲覧出来るようにしている。今後、研修等があれば参加していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施。2回のうち1回は、消防署の立ち合いにて行っている。町内会に緊急連絡網を作成していただいている。	火災を想定した避難訓練を年2回実施している。事業所には発電機や蓄電器、ガスストップ、食料備蓄等が準備され、町内会で災害協力支援のための連絡網を作成している。	近くに流れる河川の水害や豪雪、夜間の地震、停電、断水等の複合災害を想定した訓練や備蓄の再確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人を尊重して、その人に合わせた声掛けをするようにし、また個別に対応出来るように心掛けている。	一人一人の人格を尊重したコミュニケーションの取り方を工夫している。排泄や入浴時の言葉かけや態度がプライバシーを損ねないように配慮している。耳の遠い方への言葉かけには職員間で気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話を大切にし、その中で希望や思いを話しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては希望に添えない時もあるが、出来る限り希望に添える様にと考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を自分で選んで着替えているかたもいる。そうでない方には、職員がお手伝いする事により、その人らしさを出せる様に支援している。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を声掛けし、手伝ってもらうようにしている。メニューも利用者と相談して決める事により、好みの物が食べられるようにしている。	一括して食材センターから決まったメニューの食材が送られてくる。行事食や日・月曜日は自由メニューのため、利用者の希望や好みを取り入れた食事作りをしている。利用者は能力に応じて下準備や後片付け等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を記録に残すようにし、その都度摂取量の少ない方には、個別に好みの物を提供している。嚥下、咀嚼力の低下している方にも合わせた食事形態にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でする事が無い方には、朝、昼、夜と声掛け、見守りにて行っている。夜間は義歯を洗浄剤に浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前等にトイレの声掛けを行っている。失禁の多い方には、定時に確認を行っている。	食事前、おやつ前に声掛けし自室トイレでの排泄対応をしている。それ以外の利用者には個々の排泄状況に合わせ、トイレへの誘導支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、牛乳を提供している。体操や歩行運動で体を動かすようにしている。また、医師から便秘薬を処方してもらっているかたもいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分配慮し、入浴してもらっている。汚染時には、できる限り優先して入浴出来るよう配慮している。	基本週に2回を目安に、体調や気分配慮し入浴支援をしている。現在入浴を拒否する利用者はいないが、心身状況に応じてシャワー浴・足浴・部分清拭での対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に、昼食後に休息を取ってもらっている。夜間の不眠に繋がりそうな方は、短時間で済ませてもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はいつでも見られるように管理簿としてファイリングしてある。薬はすべてホームで管理している。薬に変わりがあった時は、業務日誌に記入し、職員に分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活の中で得意な事を探し出し、発揮できるように支援している。また行事等を計画し、楽しく過ごせる様工夫している。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ禍の為外出は厳しくなっている。天気がいい日の散歩や、日光浴は行っている。	感染予防の為、外出制限をしている。、感染状況に考慮しながら桜見学や自然の外気にふれるためドライブで出かけている。車内でのソフトクリーム喫食など外出の楽しみを味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居される際にトラブルを防ぐためご本人にはお金を所持しないようにと伝えている。預り金をお小遣いとしホームにて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話出来るようになってきている。手紙やハガキで遠方の方とやり取りしている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは毎日掃除し清潔に使用出来るようにしている。食卓の窓からは新得山が一望でき、春夏秋冬を目で楽しむ事が出来る。	居間の大きな窓から桜の名所の新得山が一望でき、利用者はゆったりとくつろいでいる。外にはテラスがあり部屋から出て外気に触れている。廊下には職員と利用者が一緒に作成した作品や四季を感じる飾り付けがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の席は、利用者同士がトラブルにならないよう考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの深い家具や小物を持ってきていただくようにしている。設置に関しては、基本ご本人とご家族で決めていただいているが、危険性がある場合は相談させていただいている。	居室に使い慣れたタンス等を持ち込み、家族の写真や手作り品などが飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。移動しやすいように手すりが設置され、トイレ等へ自力で行けるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉の前に大きく名前をついたプレートをかけて、ご自分の居室が分かりやすくしている。食卓の席にはそれぞれに座布団を敷いて、ご自分の席がわかりやすくなっている。		